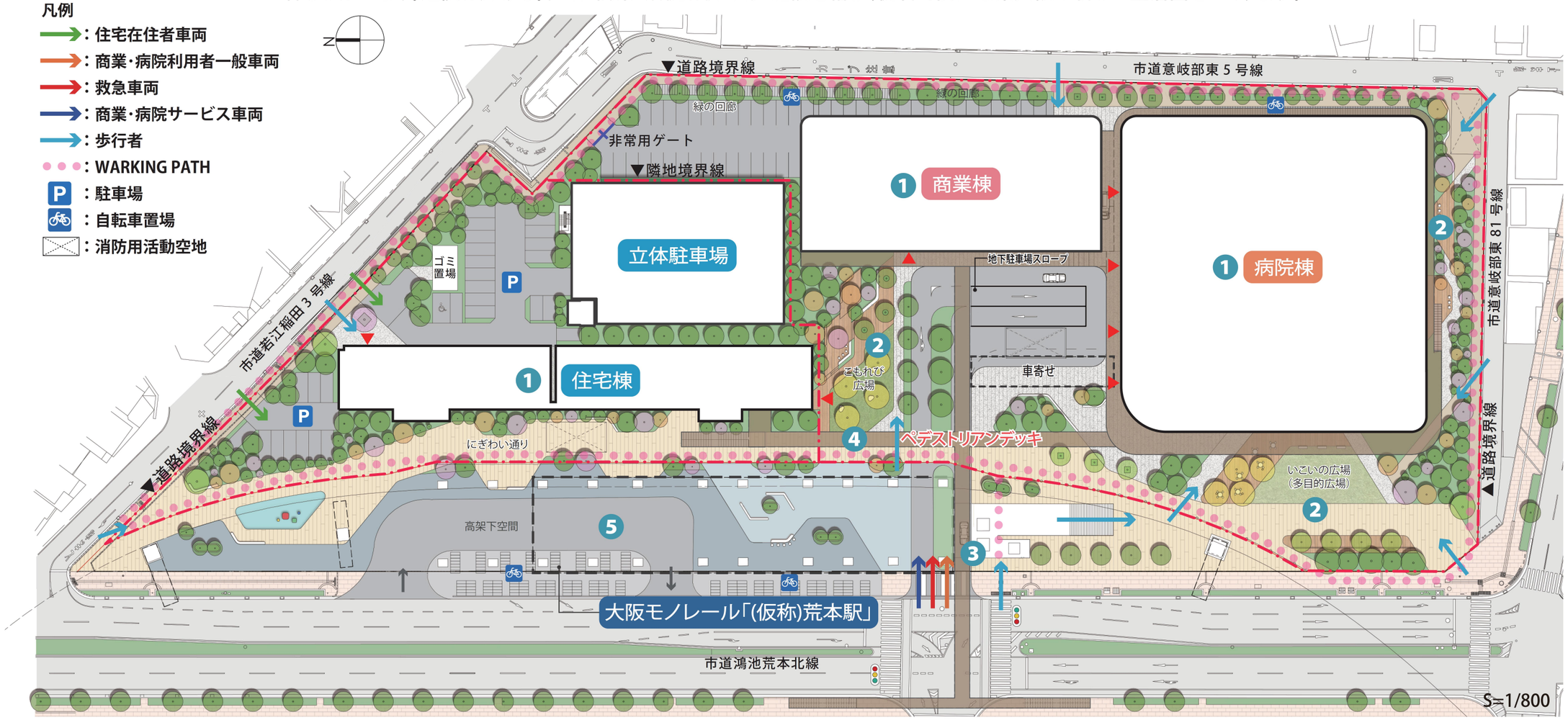
土地利用計画図

計画Point1 ｜ 暮らしをつなぎ、東大阪の新しい都市の形をつくる

暮らしはつなぐ。危険は分ける。住宅・商業・病院と駅・公共施設を結び、便利で安全な東大阪の新しい生活圏をつくります。

凡例
- ：住宅在住者車両
- ：商業・病院利用者一般車両
- ：救急車両
- ：商業・病院サービス車両
- ：歩行者
- ：WARKING PATH
- P：駐車場
- ：自転車置場
- ：消防用活動空地



❶買い物目的ではない駅利用者や散歩中の方もコンビニのように立ち寄りやすく、かつ、にぎわいをもたらす**「商業棟」を駅前の中心に配置**します。北側には周辺環境に配慮し、**敷地境界線より可能な限りセットバックして「住宅棟」を配置**し、南側には多様な人が訪れる「病院棟」を配置します。

❷**「いこいの広場」**と名付けた多目的広場（地区施設・約1,000㎡）を整備。また、敷地中央にはそれぞれが気ままに活動ができる**「こもれび広場」**、敷地周辺には**「にぎわい通り」**や**「緑の回廊」**を設け、敷地に余白を持たせつつ、**回遊性のある計画**とします。

❸敷地西側の道路「市道鴻池荒本北線」より、病院・商業用の進入路を引き込み、**北・東側の住民に配慮**するとともに、**交通渋滞を回避**します。また、動線が交錯しないように、**住民専用出入口は北側**に設けるとともに、**車両と歩行者の動線を分けた計画**とします。

❹**駅舎の公共用歩廊の延長線上にペデストリアンデッキを設け**、各施設をつなげるとともに、敷地境界部分には、フェンスなどは設けず、生垣や盛土による緩やかな起伏を設けた立体的緑地とすることによりセキュリティを確保しつつシームレスにつなぎ**1つのまち（生活圏）**を形成します。

❺利用者にとって有益性が高まるように駅舎高架下の道路形状の変更協議を行い、**高架下部分にもにぎわいを創出**できるように、本敷地と**一体的に空間をデザイン**します。空間の隔たりをなくすことで、高架下のエリアをより有効的に活用できるようにします。

※この内容は、事業予定者を選定した現時点のものであり、今後の関係各所との協議により変更となる場合があります。また、事業区域外の提案内容については、直接の評価対象とはしていません。